

2006年7月

全国の30～60代の既婚男女800名に聞いた 『結婚生活に関するアンケート調査』

～“結婚して良かった”88%、“子どもを産んで良かった”96%、“離婚を考えた”30%～

第一生命保険相互会社(社長 斎藤 勝利)のシンクタンク、(株)第一生命経済研究所(社長 石嶺 幸男)では、全国に居住する30～60代の既婚男女800名を対象に、標記についてのアンケート調査を実施いたしました。

この程、その調査結果がまとまりましたのでご報告いたします。

《調査結果のポイント》

結婚生活の現状 (P2)

- 結婚指輪を「常につけている」人は24%で、男性(16%)よりも女性(31%)の方が多い。
- 結婚記念日に夫婦でお祝いを「毎年している」人は27%で、「全くしたことがない」人は15%。
- 1カ月のお小遣いは、男性の約4割が「3万円未満」で、約7割が「5万円未満」。
- へそくりは、男性の3割、女性の5割がしており、最も多い60代女性では6割がしている。
- へそくりの金額は、男性よりも女性の方が高く、60代女性の7割が「100万円以上」。

結婚に関する意識 (P7)

- 結婚した理由は、男性では「人生の伴侶だと感じた」(55%)、女性では「お互いの愛情が確認できた」(41%)が最も多い。
- 全体の過半数が「結婚して良かった」(56%)と感じ、「どちらかといえば良かったと思う」(32%)をあわせると、9割近くが結婚を肯定している。
- もし生まれ変わったら「現在の配偶者とまた結婚したい」人は、男性46%、女性25%と男性の方が多く、また、女性の27%は「現在の配偶者とは別のひとと結婚したい」と考えている。
- 結婚生活に絶対に必要なものは、「思いやり」(78%)、「経済力」(67%)、「信頼関係」(61%)。

離婚に関する意識 (P11)

- 離婚したいと思ったことが「よくある」人は4%、「時々はある」(26%)をあわせると3割がある。
- 今後「おそらく離婚すると思う」人は1%しかおらず、「離婚する可能性はある」(5%)をあわせても6%しかいない。一方、60代女性の16%が「離婚したいけどできないと思う」と考えている。
- 離婚したいけどできない理由は、男性では「子どものことで」(46%)、女性では「経済的な自立ができない」(65%)が最も多い。

子どもに関する意識 (P14)

- 子どもを産んで「とても良かったと思う」人は75%で、「どちらかといえば良かったと思う」(21%)をあわせると、96%の人が子どもを産んだことに肯定的である。
- これからの日本社会では、子どもの性別は男の子よりも女の子の方がいいと考える人は多い。

<お問い合わせ先>

(株)第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部
研究開発室 広報担当(丹野・新井)
TEL. 03-5221-4771
FAX. 03-3212-4470

【アドレス】<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi>

《アンケート調査の実施概要》

1. 調査地域と対象 全国に居住する 30～60 代の既婚男女
2. サンプル数 800 名
3. サンプル抽出方法 第一生命経済研究所生活調査モニター
4. 調査方法 質問紙郵送調査法
5. 実施時期 2006 年 1 月
6. 有効回収数(率) 769 名 (96.1%)
7. 回答者の属性

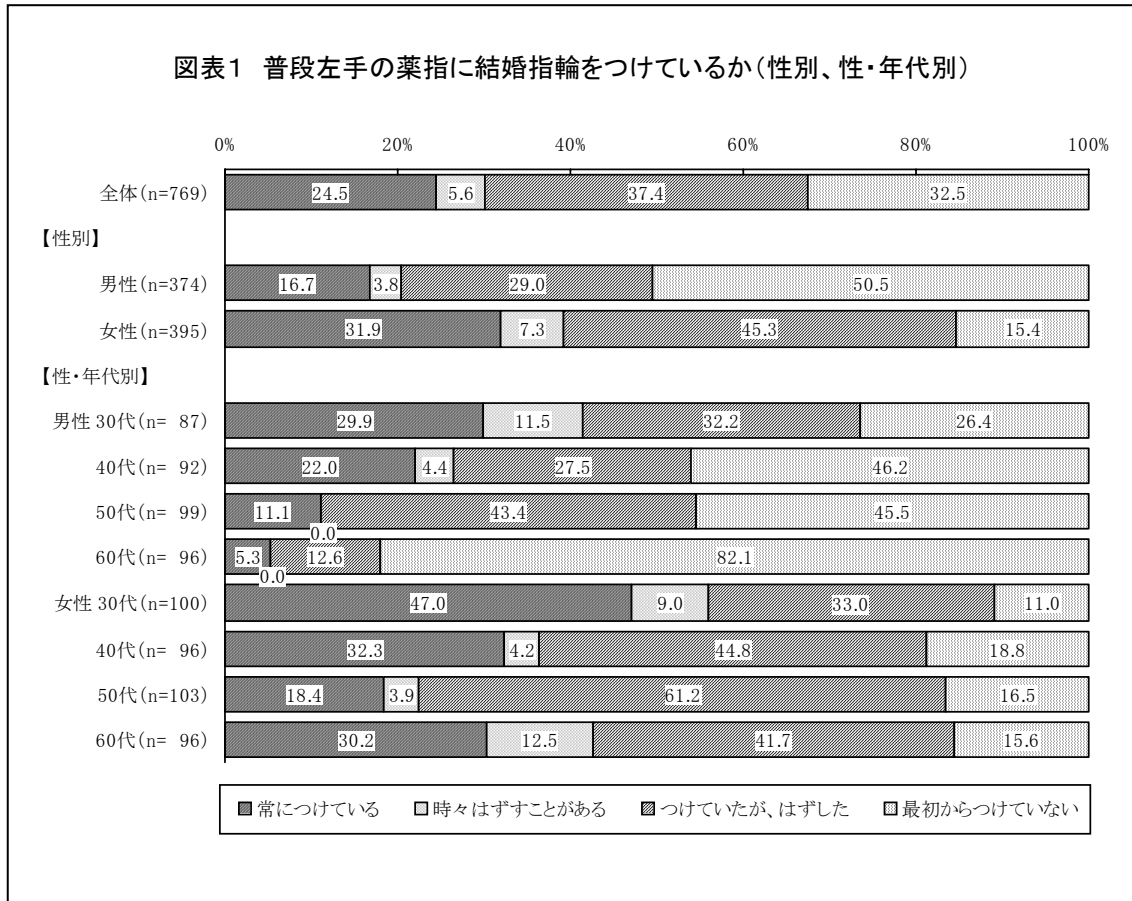
(単位:人)

	年代				合計
	30代	40代	50代	60代	
男性	87	92	99	96	374
	(23.3%)	(24.6%)	(26.5%)	(25.7%)	(48.6%)
女性	100	96	103	96	395
	(25.3%)	(24.3%)	(26.1%)	(24.3%)	(51.4%)
合計	187	188	202	192	769
	(24.3%)	(24.4%)	(26.3%)	(25.0%)	(100.0%)

結婚指輪をつけているか？

全体の約4分の1は「常につけている」(24%)が、約3分の1は「最初からつけていない」(32%)。性別では、「常につけている」のは女性(31%)よりも男性(16%)が少なく、男性の半数(50%)は「最初からつけていない」。

図表1 普段左手の薬指に結婚指輪をつけているか(性別、性・年代別)



普段左手の薬指に結婚指輪をつけているか、を尋ねました。その結果、全体では、約4分の1が「常につけている」(24.5%)が、約3分の1は「最初からつけていない」(32.5%)ことがわかりました。また、「つけていたが、はずした」人も37.4%と4割近くいました。

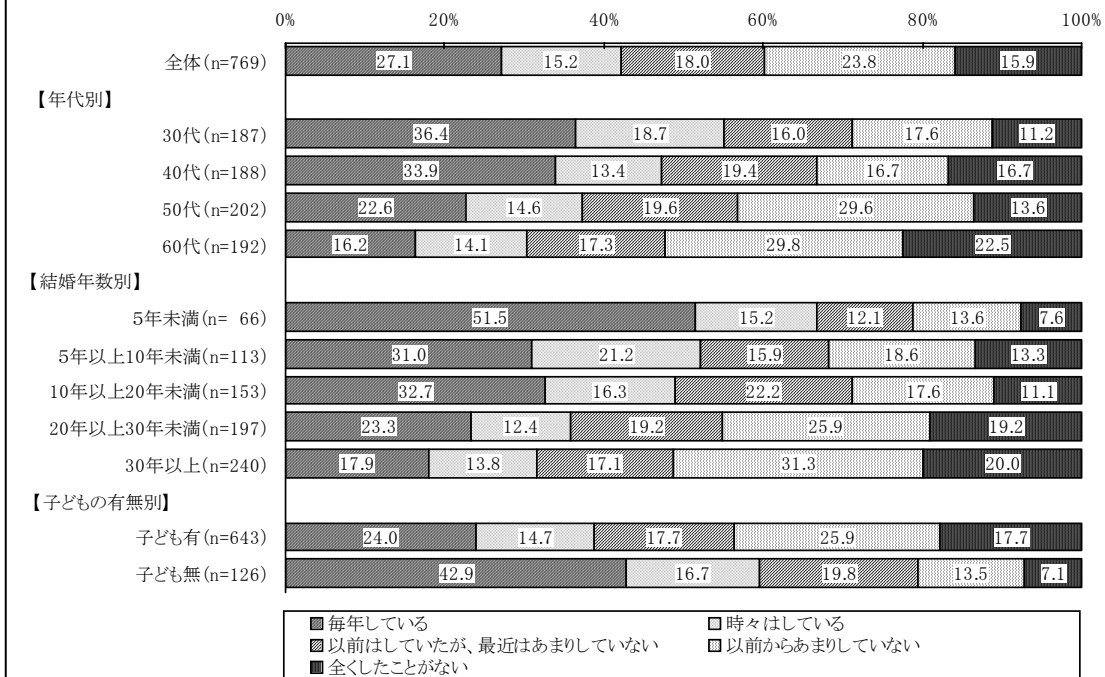
性別でみると、「常につけている」割合は、女性では31.9%と3割以上いるのに対し、男性では16.7%しかいませんでした。また、男性の半数は「最初からつけていない」(50.5%)こともわかりました。

性・年代別でみると、「常につけている」割合が最も高いのは男女ともに30代ですが、男性の29.9%に対して女性は47.0%と、その間には大きな差(17.0ポイント)があります。また、「最初からつけていない」割合は、女性では全ての年代で1割強と年代差があまりないのに対し、男性では30代の26.4%から年代が上がるにつれて高くなり、60代においては8割以上(82.1%)にもなります。

結婚記念日に夫婦でお祝いをしているか？

全体の4分の1以上が「毎年している」(27%)で、30代(36%)と40代(33%)では3分の1以上にも及ぶ。その一方で、「全くしたことがない」人も15%いる。結婚5年未満では、過半数(51%)が「毎年している」。

図表2 結婚記念日には、夫婦でお祝い(食事・プレゼント等)をしているか
(年代別、結婚年数別、子どもの有無別)



結婚記念日には、夫婦で食事やプレゼント等のお祝いをしているか、を尋ねました。その結果、全体では、4分の1以上が「毎年している」(27.1%) ことがわかりました。しかし、その一方で、「全くしたことがない」人も15.9%いました。

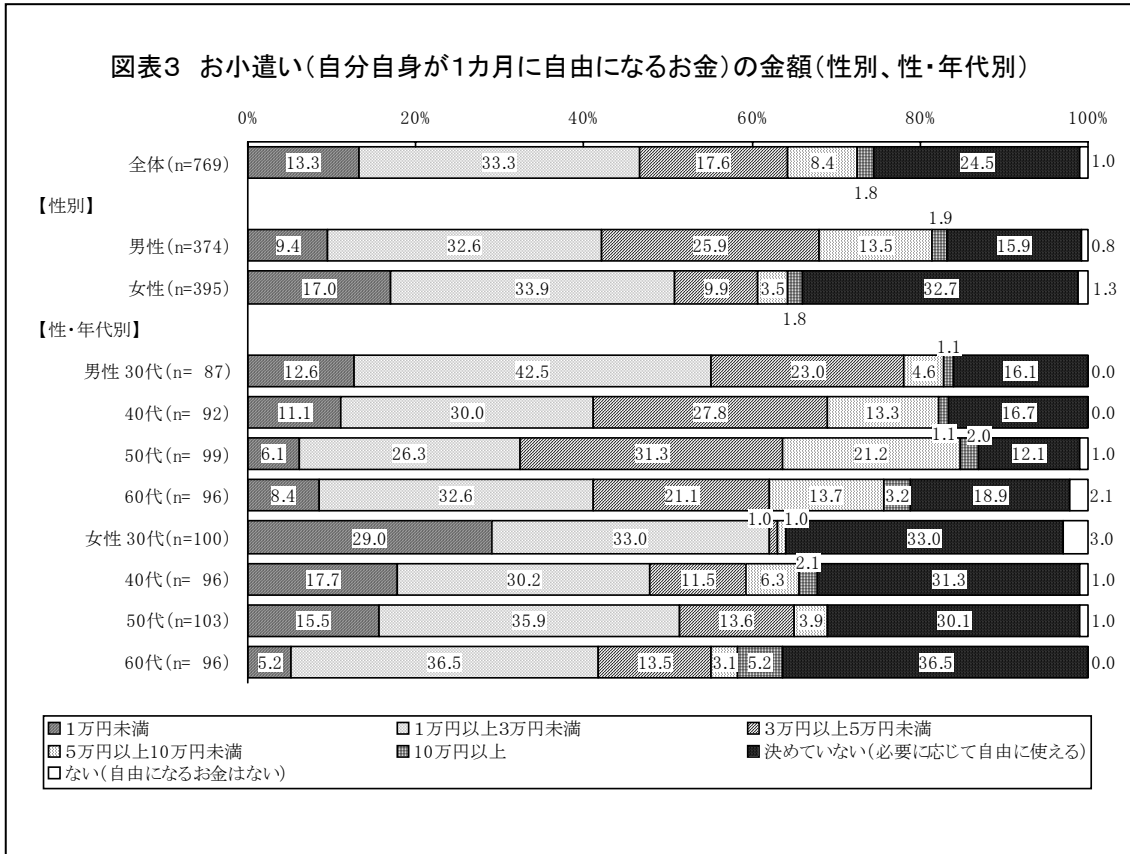
年代別でみると、「毎年している」割合は若い年代ほど高く、30代(36.4%)と40代(33.9%)では3分の1以上の人が毎年結婚記念日を祝っています。

結婚年数別でみると、「5年未満」では、「毎年している」(51.5%) 割合が最も高く、過半数を占めています。

子どもの有無別でみると、「毎年している」割合は、子どもがいる人(24.0%)よりも、子どもがいない人(42.9%)の方が高い結果となりました。

1カ月のお小遣いはいくらか？

男性の約4割は“3万円未満”（42%）、約7割は“5万円未満”（67%）。
女性の約3分の1（32%）は、お小遣いの金額を決めていない。



自分自身が1カ月に自由になるお金、いわゆる“お小遣い”はいくらか、を尋ねました。その結果、全体では、「1万円以上3万円未満」(33.3%)が最も多く、「1万円未満」(13.3%)をあわせると、半数近くの方は“3万円未満”(46.6%)であることがわかりました。

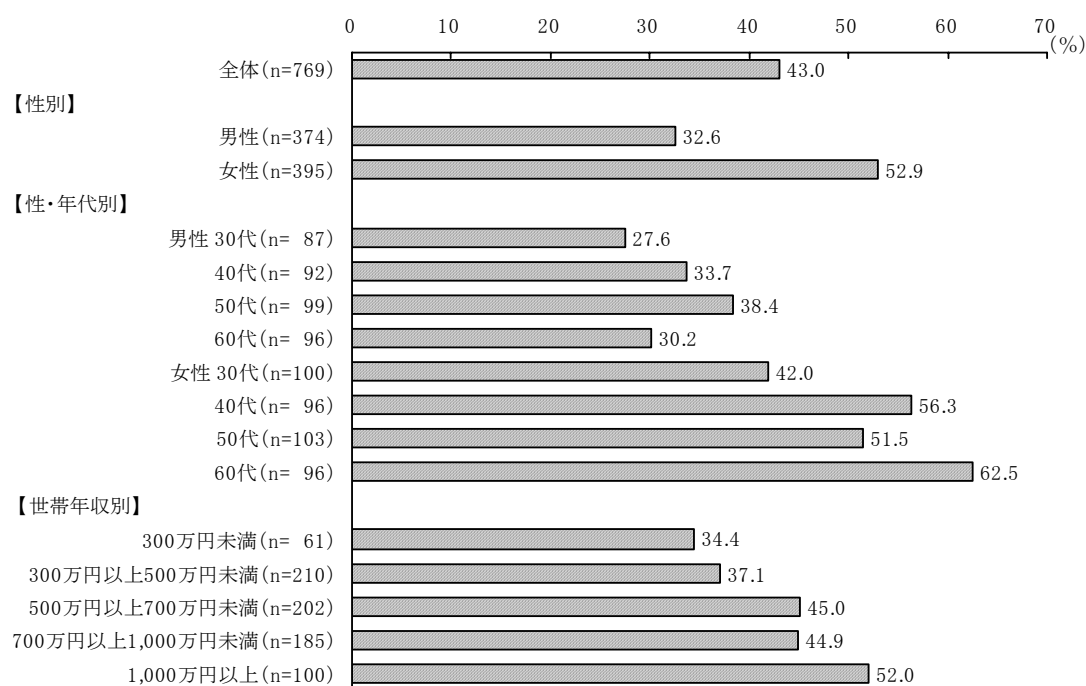
性別で見ると、男性で最も多いのは「1万円以上3万円未満」(32.6%)で、次いで「3万円以上5万円未満」(25.9%)、「5万円以上10万円未満」(13.5%)、「1万円未満」(9.4%)の順になりました。これらから、男性のお小遣いは、約4割が“3万円未満”(42.0%)、約7割が“5万円未満”(67.9%)であることがわかりました。その一方で、女性の約3分の1は「決めていない(必要に応じて自由に使える)」(32.7%)と回答しており、お小遣いといった概念を持っていないことがみてとれます。

性・年代別で見ると、男性については、“5万円以上”の割合は年代が上がるほど高くなり、50代(23.2%)で最も高くなります。また、女性については、年代に関係なく3割以上が「決めていない(必要に応じて自由に使える)」と回答しました。

へそくりをしているか？

全体の4割以上(43%)の人がへそくりをしている。性別では、男性(32%)よりも女性(52%)の方が割合は高く、過半数を占めている。性・年代別では、割合が最も高いのは、60代女性で6割以上(62%)。

図表4 へそくり(配偶者に内緒にしている貯蓄)をしているか(性別、性・年代別、世帯年収別)



注：“へそくり”を「している」と回答した割合。世帯年収「不明」は除く。

配偶者に内緒にしている貯蓄、いわゆる“へそくり”をしているか、を尋ねました。その結果、全体では、4割以上(43.0%)の人がへそくりをしていることがわかりました。

性別でみると、男性(32.6%)に比べて、女性(52.9%)の方がへそくりをしている割合は高く、過半数を占めています。

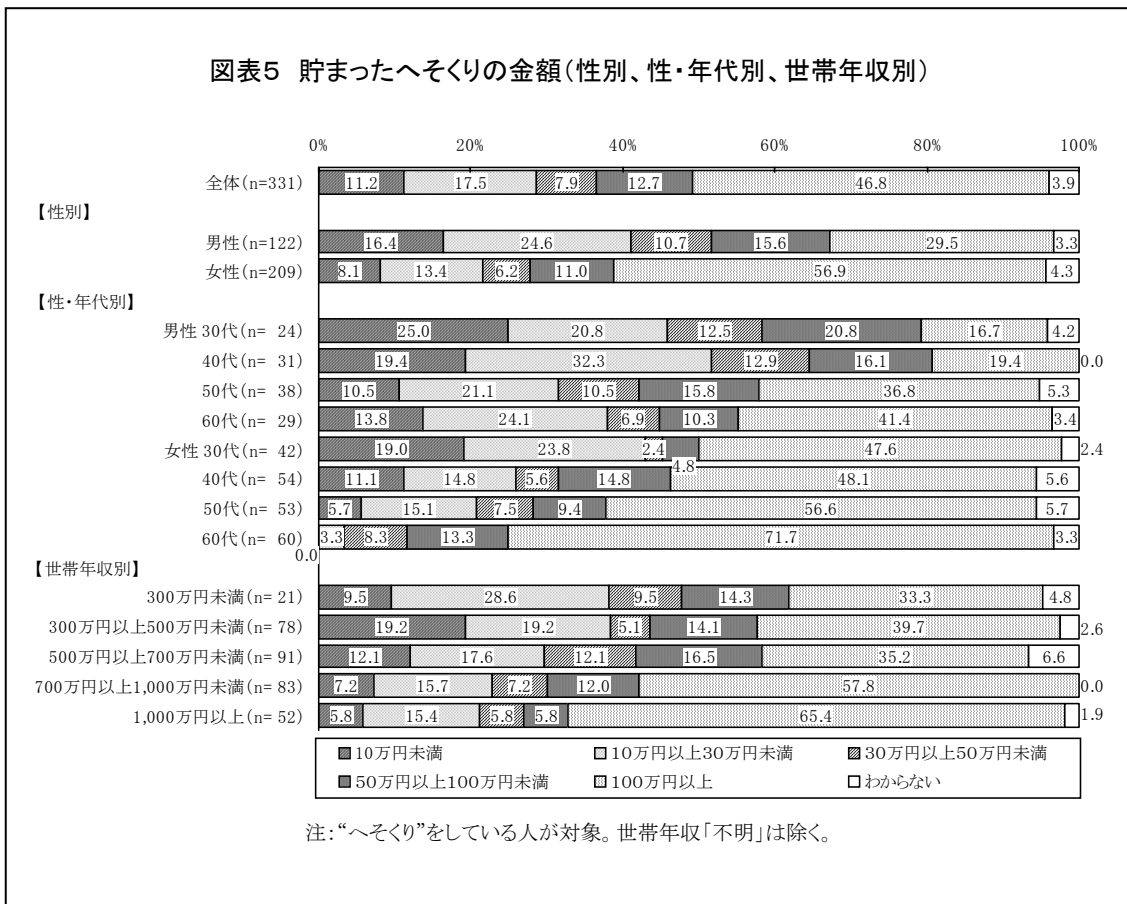
性・年代別でみると、へそくりをしている割合は、女性の40代以上では過半数を占め、最も割合が高い60代においては6割以上(62.5%)にもなります。また、男女差は60代において最も大きく、女性(62.5%)は男性(30.2%)の倍以上にもなっています。

世帯年収別でみると、年収が多いほどへそくりをしている割合も高くなり、年収が最も高い「1,000万円以上」では、半数以上(52.0%)の人がへそくりをしています。

貯まったへそくりはいくらか？

全体の半数近くの人が「100万円以上」(46%)貯めている。
 へそくりの金額は年代に比例して高くなり、その傾向は特に女性に顕著で、
 「100万円以上」の割合は、30代の47%から60代では71%に増える。

図表5 貯まったへそくりの金額(性別、性・年代別、世帯年収別)



へそくりをしていると回答した人に対して、貯まった“へそくり”はいくらくらいあるか、を尋ねました。その結果、全体では、「100万円以上」(46.8%)が最も多く、半数近くの人
がかなりまとまったお金をへそくりとして貯めていることがわかりました。

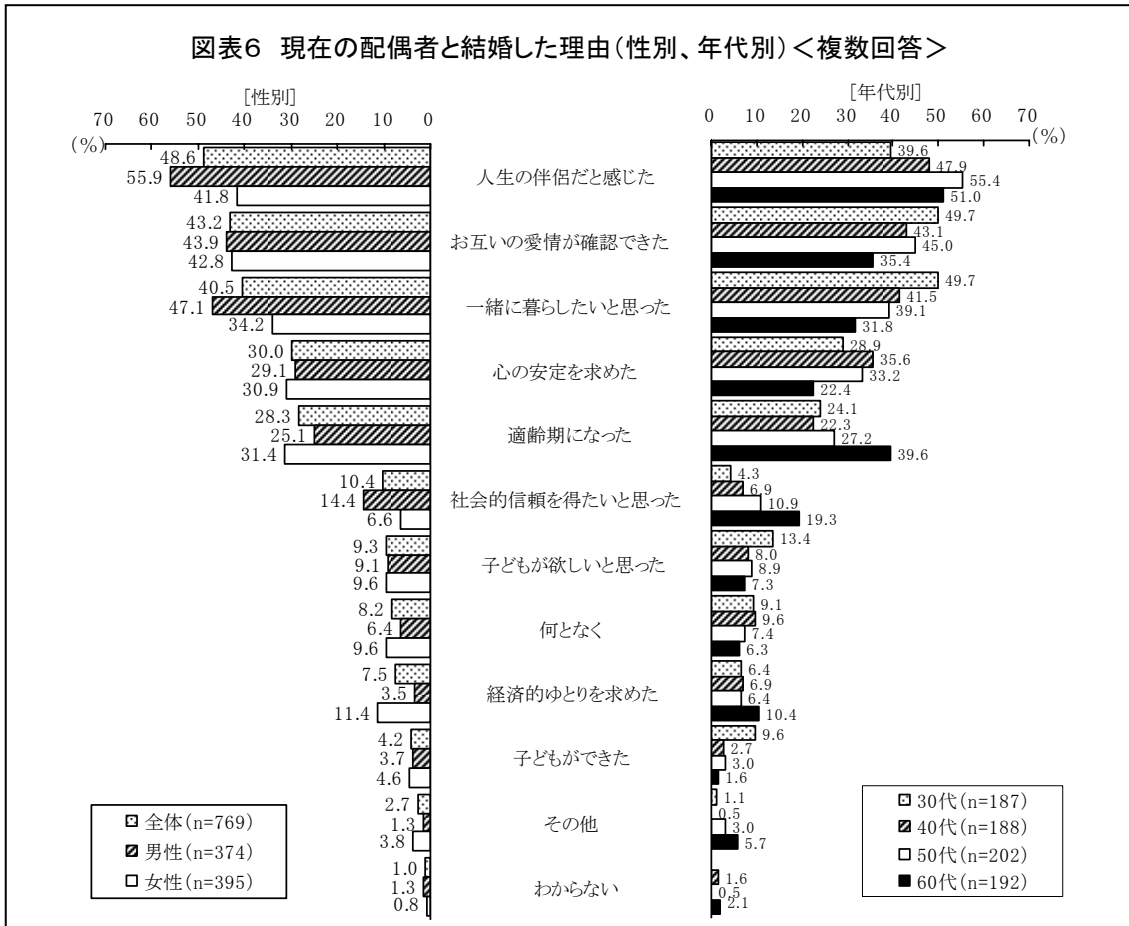
性別でみると、男女ともに最も多いのは「100万円以上」ですが、その割合は男性の29.5%
 に対して女性は56.9%とその差は大きく、女性では過半数を占めています。また、次いで多
 いのは、男女ともに「10万円以上30万円未満」でした。

性・年代別でみると、へそくりを「100万円以上」している割合は、特に女性において年
代に比例して高くなり、最も高い60代では7割以上(71.7%)にもなります。

世帯年収別でみると、へそくりを「100万円以上」している割合は、年収が多いほど高く
 なる傾向がありました。

結婚した理由は何か？

男性では「人生の伴侶だと感じた」(55%)、女性では「お互いの愛情が確認できた」(42%)が最も多い。男女差が顕著な項目は、女性では「適齢期になった」、男性では「社会的信頼を得たいと思った」が多い。



現在の配偶者と結婚した理由を複数回答で尋ねました。その結果、全体では、「人生の伴侶だと感じた」(48.6%)が最も多く、次いで、「お互いの愛情が確認できた」(43.2%)、「一緒に暮らしたいと思った」(40.5%)になりました。

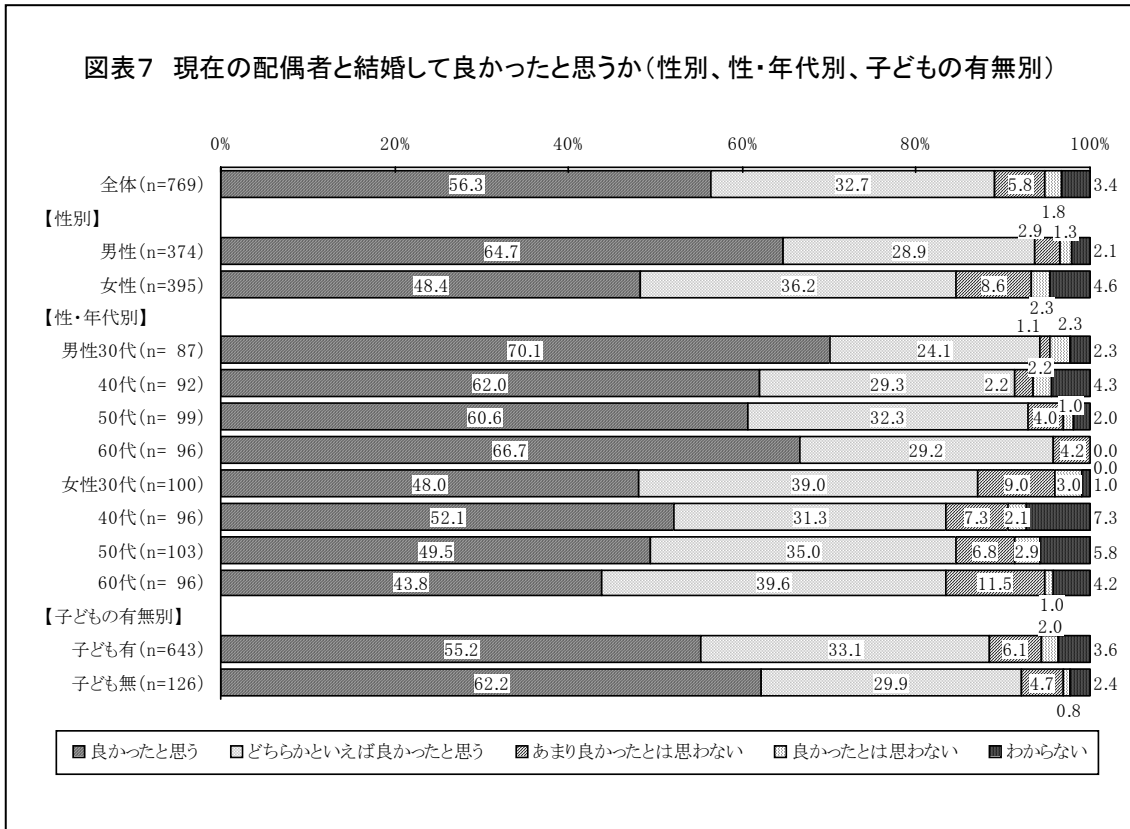
性別でみると、男性では「人生の伴侶だと感じた」(55.9%)、女性では「お互いの愛情が確認できた」(42.8%)が最も多い結果になりました。また、男女差が顕著な項目として、女性では「適齢期になった」(31.4%)や「経済的ゆとりを求めた」(11.4%)、男性では「一緒に暮らしたいと思った」(47.1%)や「社会的信頼を得たいと思った」(14.4%)などが多いこともあげられます。

年代別でみると、若い年代ほど「お互いの愛情が確認できた」や「一緒に暮らしたいと思った」などの感情的な理由が多くなる一方で、「適齢期になった」や「社会的信頼を得たいと思った」などの周囲を意識した理由は、年代が上がるほど多くなります。

結婚して良かったと思うか？

全体の過半数(56%)が「良かったと思う」と回答し、「どちらかといえば良かったと思う」(32%)をあわせると、9割近くが結婚を肯定している。性別では、「良かったと思う」のは、女性(48%)よりも男性(64%)に多い。

図表7 現在の配偶者と結婚して良かったと思うか(性別、性・年代別、子どもの有無別)



現在の配偶者と結婚して良かったと思うか、を尋ねました。その結果、全体では、「良かったと思う」(56.3%)が最も多く、「どちらかといえば良かったと思う」(32.7%)をあわせると、9割近く(89.0%)の人が結婚して良かったと感じていることがわかりました。

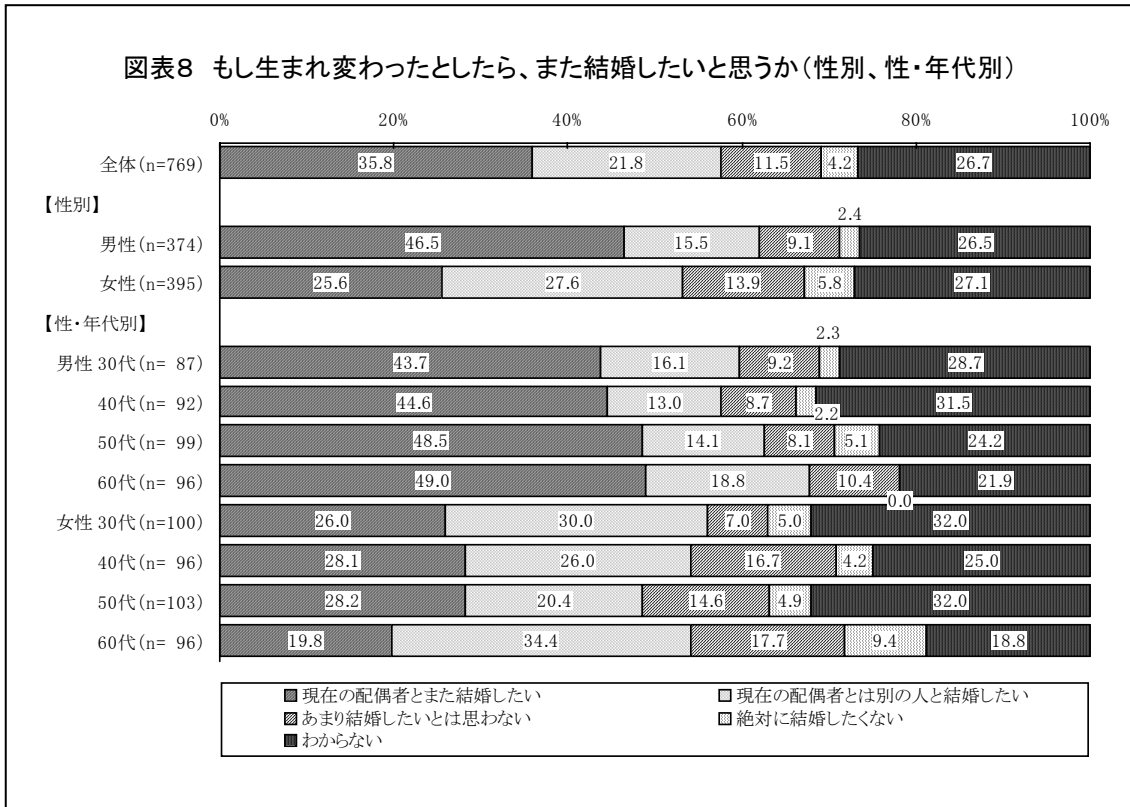
性別でみると、「良かったと思う」と「どちらかといえば良かったと思う」をあわせた割合は、女性(84.6%)に比べて男性(93.6%)の方が高いことがわかりました。また、「良かったと思う」割合を比べても、男性(64.7%)は女性(48.4%)を大きく上回ります。

性・年代別でみると、「良かったと思う」割合は、男性では30代(70.1%)と60代(66.7%)において高くなっていますが、それとは逆に、女性では30代(48.0%)と60代(43.8%)において低くなり、これらの年代では男女の意識に大きな差があるといえます。

子どもの有無別でみると、「良かったと思う」「どちらかといえば良かったと思う」割合は、子どもがいる人よりも、子どもがいない人の方が高い結果となりました。

生まれ変わったらまた結婚したいと思うか？

全体の約3分の1が「現在の配偶者とまた結婚したい」(35%)、約5分の1が「現在の配偶者とは別のひとと結婚したい」(21%)と思っている。「現在の配偶者とまた結婚したい」のは、女性(25%)よりも男性(46%)に多い。



もし生まれ変わったら、また結婚したいと思うか、を尋ねました。その結果、全体では、「現在の配偶者とまた結婚したい」(35.8%)が最も多く、3分の1以上の方が同じ配偶者との結婚を求めていることがわかりました。しかし、その一方で、「現在の配偶者とは別のひとと結婚したい」人も21.8%おり、約5分の1は違う配偶者との結婚を求めています。

性別でみると、男性の半数近く(46.5%)が「現在の配偶者とまた結婚したい」と考えているのに対し、女性では25.6%しかおらず、男女の意識には大きな差があります。さらに、「現在の配偶者とは別のひとと結婚したい」割合も、男性(15.5%)に比べて女性(27.6%)の方が高い結果となりました。また、「あまり結婚したいとは思わない」と「絶対に結婚したくない」をあわせた割合は、男性(11.5%)に比べて女性(19.7%)の方が高く、結婚に対して否定的な女性の姿が垣間みえます。

性・年代別でみると、「現在の配偶者とまた結婚したい」割合は、60代の男性(49.0%)で最も高いのに対し、60代の女性(19.8%)で最も低い結果となりました。その一方で、60代の女性では「現在の配偶者とは別のひとと結婚したい」(34.4%)が最も高くなっています。

結婚生活に絶対に必要なものは何だと思うか？

第1位「思いやり」(78%)、第2位「経済力」(67%)、第3位「信頼関係」(61%)。
全般的に、男性よりも女性の方が「経済力」の割合が高い傾向がある。
男女ともに60代になると、「我慢・忍耐」が上位にくる。

図表9 結婚生活に絶対に必要なものは何か？(性・年代別)＜複数回答＞

	n	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
全体	769	思いやり	78.3%	経済力	67.2%	信頼関係	61.0%	会話	48.2%	愛情	34.0%
男性 30代	87	思いやり	79.3%	会話・信頼関係		60.9%	経済力	57.5%	愛情	37.9%	
40代	92	思いやり	79.3%	信頼関係	58.7%	経済力	55.4%	会話・愛情		42.4%	
50代	99	思いやり	76.8%	経済力	66.7%	信頼関係	62.6%	愛情	40.4%	会話	39.4%
60代	96	思いやり	84.4%	経済力	64.6%	信頼関係	51.0%	我慢・忍耐	37.5%	会話	35.4%
女性 30代	100	思いやり	70.0%	信頼関係	64.0%	会話	63.0%	経済力	60.0%	愛情	34.0%
40代	96	思いやり	79.2%	経済力	72.9%	信頼関係	63.5%	会話	57.3%	愛情	29.2%
50代	103	思いやり	81.6%	経済力	78.6%	信頼関係	60.2%	会話	53.4%	愛情	30.1%
60代	96	経済力	79.2%	思いやり	76.0%	信頼関係	66.7%	会話	35.4%	我慢・忍耐	27.1%

結婚生活に絶対に必要なものは何か、を複数回答で尋ねました。その結果、全体では、「思いやり」(78.3%)が最も多く、次いで「経済力」(67.2%)、「信頼関係」(61.0%)の順になりました。また、第5位にある「愛情」については、3分の1(34.0%)の人しか必要だとは思っていないことがわかりました。

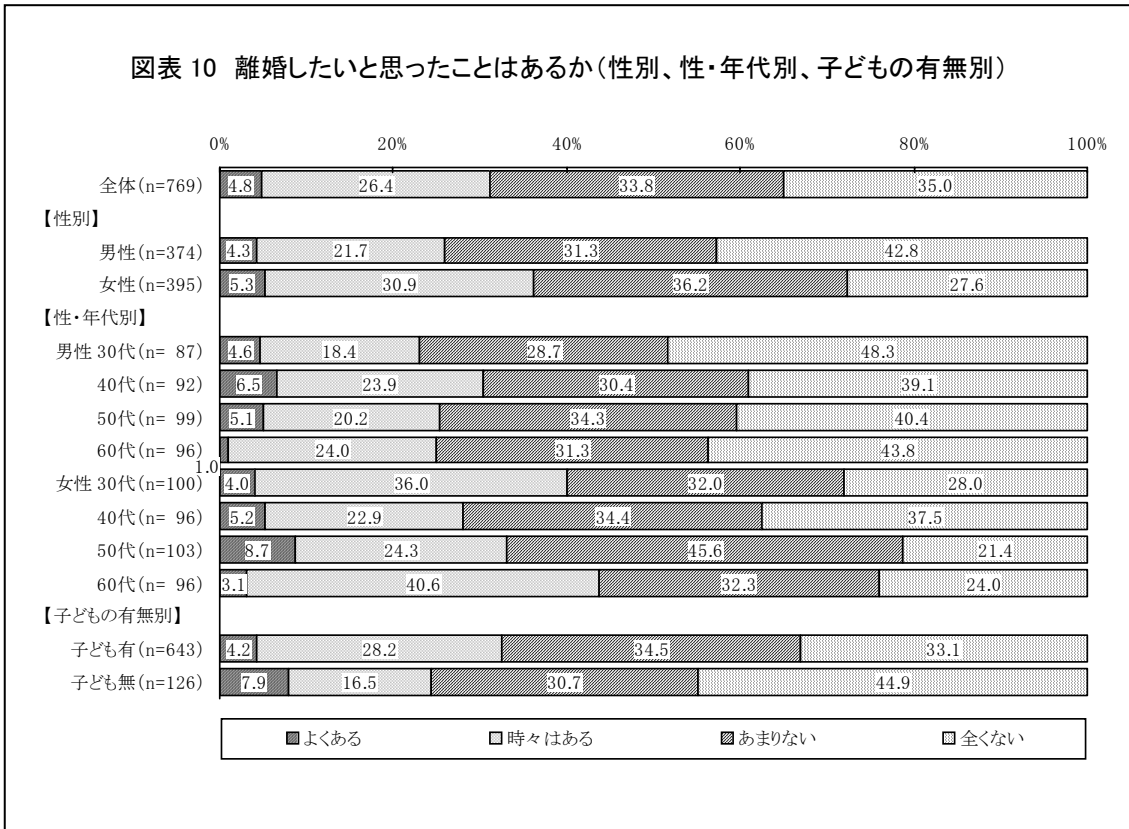
性・年代別でみると、60代の女性を除いて、男女ともに「思いやり」が第1位となりました。唯一「思いやり」以外の項目が第1位になった60代の女性は、「経済力」(79.2%)を第1位に選んでおり、その他の年代をみても、女性は男性よりも「経済力」を重視していることがみてとれます。

また、男女ともに60代になると、その他の年代にはみられない「我慢・忍耐」が上位に入ってきました。

離婚したいと思ったことはあるか？

「よくある」(4%)と「時々はある」(26%)をあわせると、全体の3割の人が離婚を意識したことがある。性別では、男性(26%)よりも女性(36%)に多く、年代別では、女性の30代(40%)と60代(43%)に多い。

図表 10 離婚したいと思ったことはあるか(性別、性・年代別、子どもの有無別)



離婚したいと思ったことはあるか、を尋ねました。その結果、全体では、「よくある」(4.8%)と「時々はある」(26.4%)をあわせると、約3割(31.2%)の人が多かれ少なかれ離婚したいと思った経験を持つことがわかりました。

性別でみると、「よくある」と「時々はある」をあわせた割合は、男性では26.0%なのにに対し、女性では36.2%と10ポイントも女性の方が高い結果となりました。また、「全くない」の割合をみても、女性(27.6%)に比べて男性(42.8%)の方が高く、男性の4割以上は離婚を全く意識したことがありません。

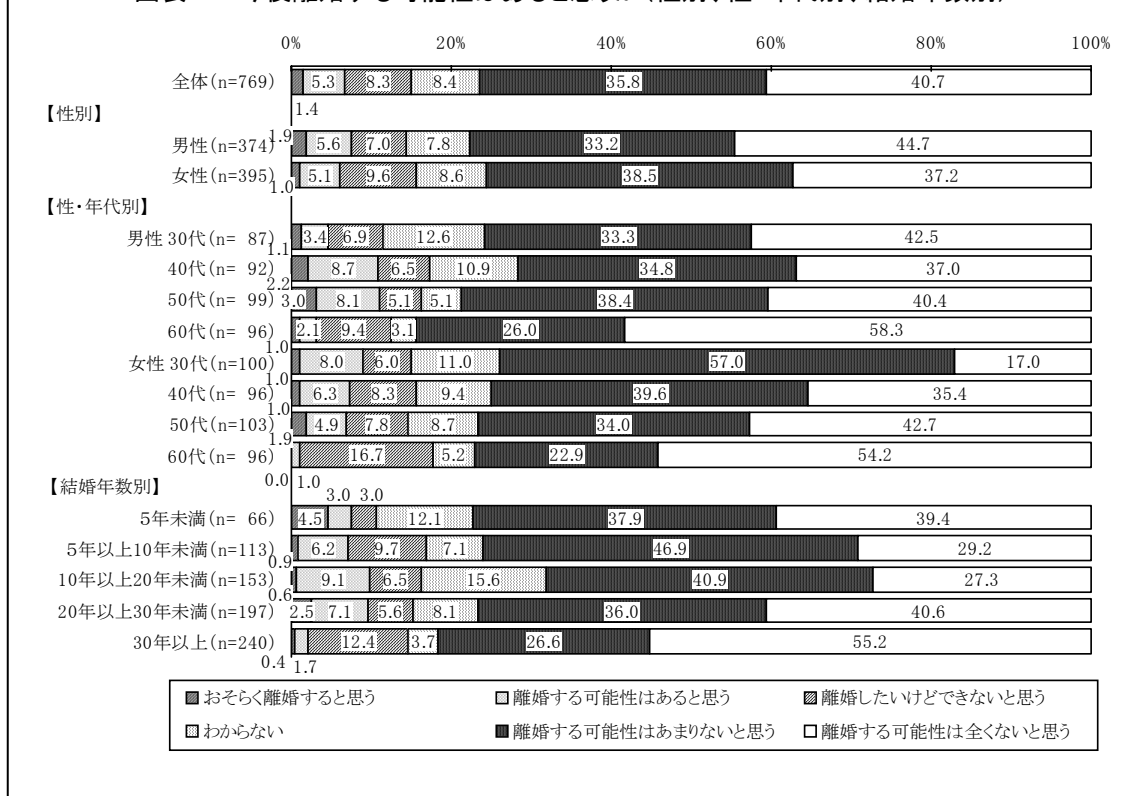
性・年代別でみると、「よくある」と「時々はある」をあわせた割合は、男性では年代による差はあまりありませんが、女性では30代(40.0%)と60代(43.7%)が突出して高く、子育て世代と高齢世代において離婚を考える女性が多いことがみてとれます。

子どもの有無別でみると、「よくある」と「時々はある」をあわせた割合は、子どもがいない人(24.4%)よりも、子どもがいる人(32.4%)の方が高い結果となりました。

今後離婚する可能性はあると思うか？

離婚を考えたことがある人は3割いるが、実際に離婚に踏み切れそうな人は6%と少ない。60代女性の16%が「離婚したいけどできないと思う」。

図表 11 今後離婚する可能性はあると思うか(性別、性・年代別、結婚年数別)



現在の配偶者とは、今後離婚する可能性はあると思うか、を尋ねました。その結果、**全体**では、「おそろく離婚すると思う」(1.4%)はほとんどなく、「離婚する可能性はあると思う」(5.3%)をあわせても、**6.7%にしか過ぎませんでした**。前頁において、**離婚したいと思ったことがある人は約3割**いましたが、**実際に離婚に踏み切れそうな人は少ない**ことがわかりました。

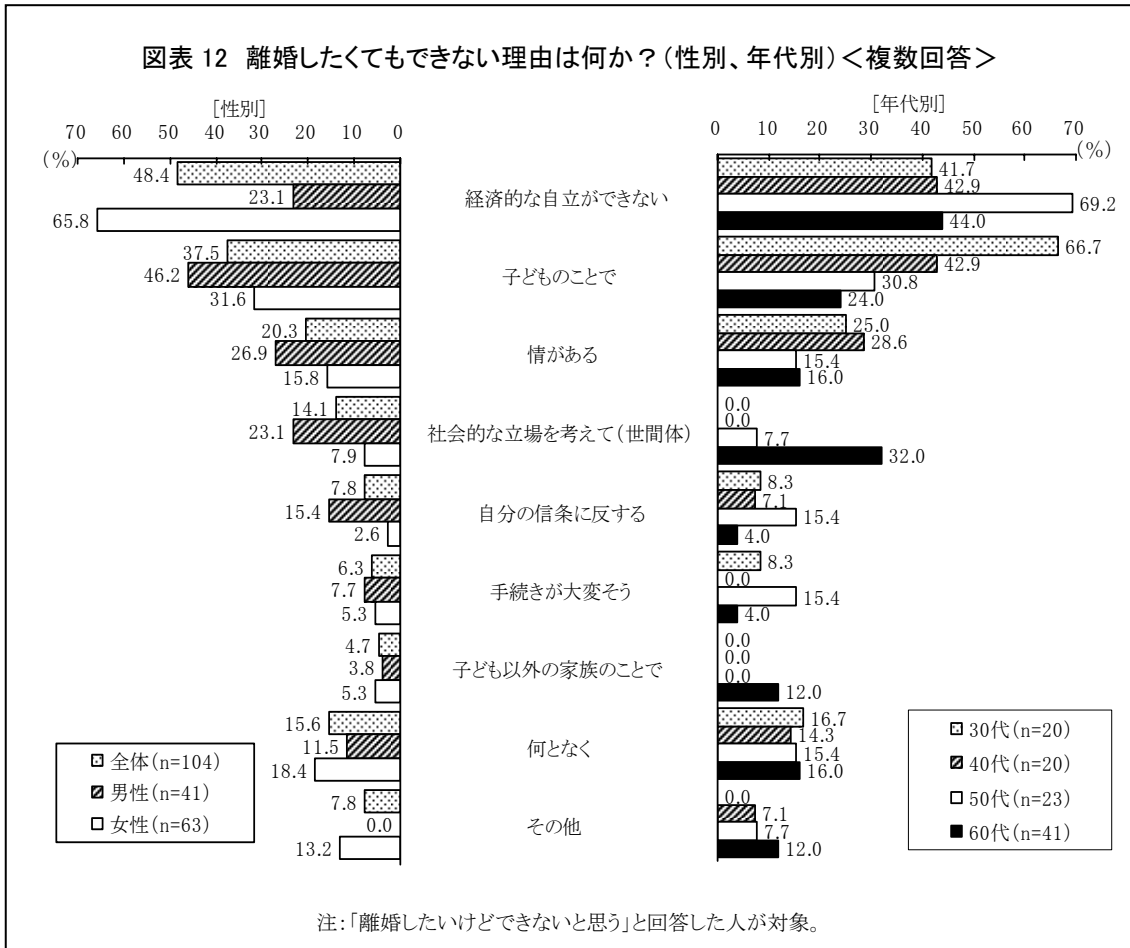
性別でみると、「離婚する可能性は全くないと思う」のように、絶対に離婚はあり得ないと考えている人は、女性(37.2%)よりも男性(44.7%)に多いことがみてとれます。

性・年代別でみると、「離婚する可能性は全くないと思う」割合は、男女ともに年代が上がるほど高くなり、60代では半数を超えます。しかし、その一方で、**60代の女性の16.7%が「離婚したいけどできないと思う」と回答**しており、**熟年離婚の背景にある女性の思い**が垣間みえます。

結婚年数別でみると、「離婚する可能性は全くないと思う」割合は、年数が経つほど高くなり、夫婦の絆が深まっていくことがみてとれます。

離婚したくてもできない理由は何か？

全体では、「経済的な自立ができない」(48%)、「子どものことで」(37%)
「情がある」(20%)の順に多い。性別では、男性の第1位は「子どもの
ことで」(46%)、女性の第1位は「経済的な自立ができない」(65%)。



前頁において、「離婚したいけどできないと思う」と回答した人に対し、その理由を複数回答で尋ねました。その結果、全体では、「経済的な自立ができない」(48.4%)が最も多く、次いで「子どものことで」(37.5%)、「情がある」(20.3%)の順になりました。

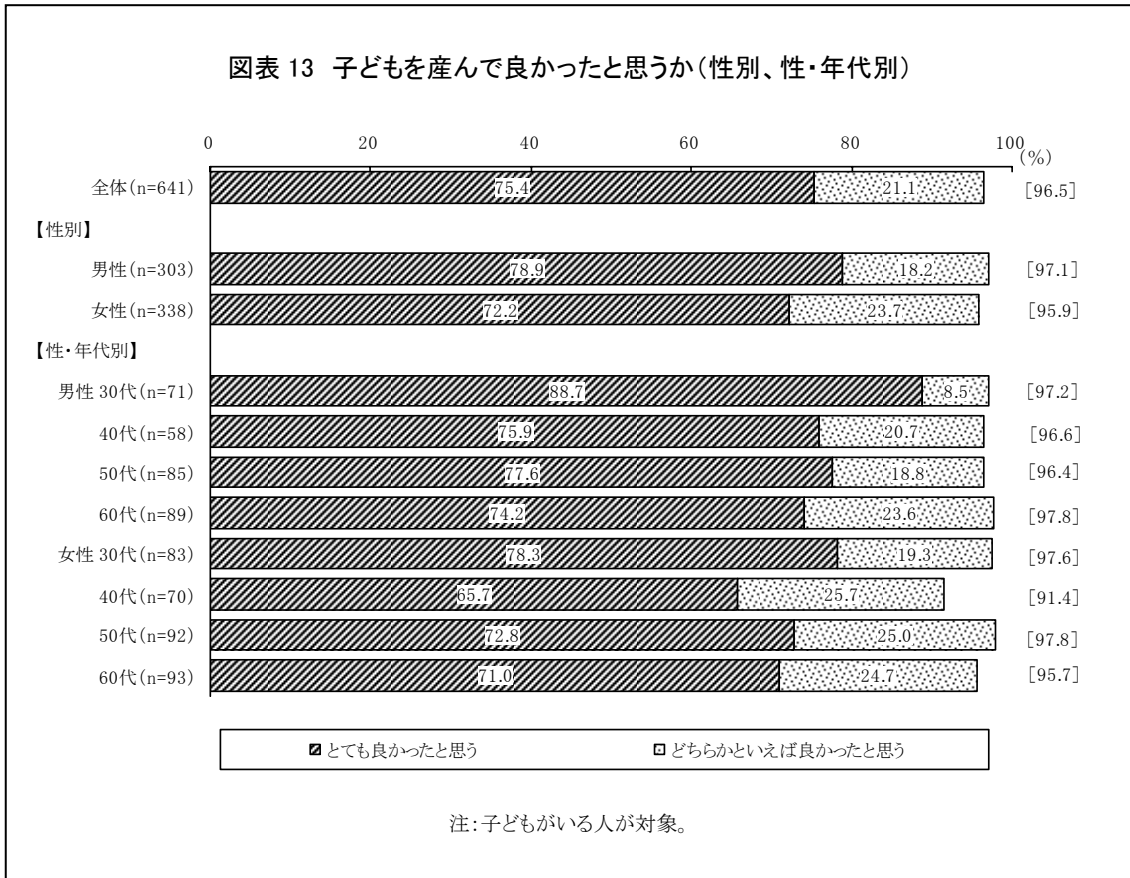
性別で見ると、男性は「子どものことで」(46.2%)が最も多いのに対し、女性は「経済的な自立ができない」(65.8%)が突出して多く、離婚したいと考えている女性の6割以上が経済的な面を心配していることがわかりました。また、「情がある」「社会的な立場を考慮して(世間体)」「自分の信条に反する」については、女性よりも男性に多い結果となりました。

年代別で見ると、「経済的な自立ができない」(69.2%)は50代、「子どものことで」(66.7%)は30代、「社会的な立場を考慮して(世間体)」(32.0%)は60代において、特に多いことがわかりました。

子どもを産んで良かったと思うか？

全体の4分の3が「とても良かったと思う」(75%)と回答し、「どちらかといえば良かったと思う」(21%)をあわせると、96%が良かったと思っている。
「とても良かったと思う」割合は、男女ともに30代で最も高い。

図表 13 子どもを産んで良かったと思うか(性別、性・年代別)



子どもがいる人に対して、子どもを産んで良かったと思うか、を尋ねました。その結果、全体では、4分の3が「とても良かったと思う」(75.4%)と回答し、「どちらかといえば良かったと思う」(21.1%)をあわせると、9割以上(96.5%)の人が子どもを産んだことを良かったと考えていることがわかりました。

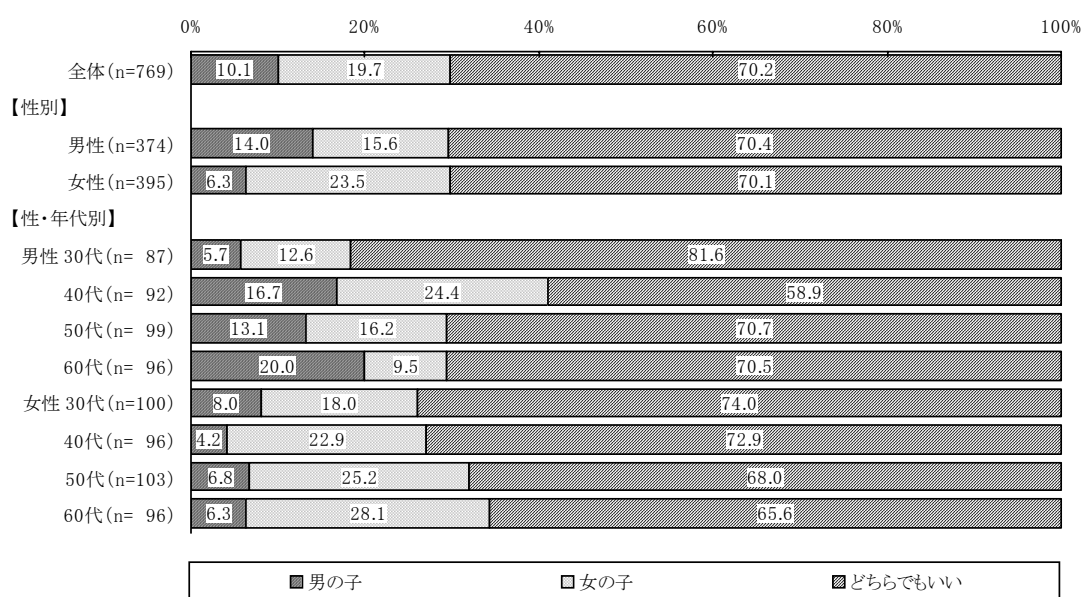
性別で見ると、「とても良かったと思う」割合は、女性(72.2%)に比べて男性(78.9%)の方が高い結果になりました。

性・年代別で見ると、「とても良かったと思う」割合は、男女ともに30代において最も高く、小さい子どもがいる人ほど子どもを産んだ喜びを感じていることがみてとれます。特に、男性の30代では、その割合が9割近く(88.7%)と最も高くなっています。

これからの日本社会で子どもの性別はどちらがいいと思うか？

「どちらでもいい」(70%)が最も多く、7割の人は拘りを持っていない。
 男の子(10%)よりも、女の子(19%)の方がいいと考える人が多い。
 男性では、60代(20%)だけが「男の子」の方がいいと考える人が多く、
 女性では、年代が上がるほど「女の子」の方がいいと考える人は増える。

図表 14 これからの日本社会では、子どもの性別はどちらがいいと思うか(性別、性・年代別)



これからの日本社会では、子どもの性別はどちらがいいと思うか、を尋ねました。その結果、全体では、男の子 (10.1%) よりも女の子 (19.7%) の方がいいと考える人が多いことがわかりました。しかし、その一方で、最も多いのは「どちらでもいい」 (70.2%) で、7割の人は子どもの性別にはあまり拘りを持っていないことがみてとれます。

性別でみると、「男の子」がいいと思うのは男性に多く、「女の子」がいいと思うのは女性に多いなど、子どもの性別には自分と同じ性を選ぶ人が多い傾向があります。

性・年代別でみると、女性においては特に、年代が上がるほど「女の子」の割合が高くなり、同時に「どちらでもいい」割合は低くなっていきます。また、男性においては、30代～50代は「女の子」の割合が高くなりましたが、唯一60代だけは「男の子」の方が高い結果となりました。

《研究員のコメント》

本アンケートでは、既婚者の結婚生活の実態や結婚観・離婚観などを調査いたしました。近年日本では晩婚化や未婚化が叫ばれていますが、その原因は多岐にわたり、一概に解決策を見出すことは難しいのが現状です。しかし、実際に“結婚”というライフイベントを経験した既婚者から、結婚生活の実態や結婚に関する意識などを知ることは、これから結婚するであろう人にとっても参考になると思われます。また、現在結婚生活をおくっている既婚者にとっても、他人の生活や考えを垣間みることは、今一度自分自身の生活を振り返るために参考になる部分があるかもしれません。

結婚生活の実態については、日常的に結婚指輪をつけている人は全体の4分の1しかおらず、性別では、男性のつけている割合は女性の半分しかいないことがわかりました。また、結婚記念日に食事やプレゼントなどのお祝いを毎年している人は3割弱しかおらず、全くしたことがない人も15%いました。お金に関する調査では、夫の1カ月のお小遣いは約4割が3万円未満、約7割が5万円未満でした。また、へそくりをしている人は、男性で3割、女性で5割いました。さらには、最もへそくりをしているのは60代の女性で、そのうちの7割が100万円以上貯めているという実態もわかりました。

結婚に関する意識については、全体の過半数が「結婚して良かった」と感じており、「どちらかといえば良かった」をあわせると、9割近くの人が結婚したことを肯定的に捉えていました。また、もし生まれ変わったらという仮定で、現在の配偶者とまた結婚したいかという質問には、男性の5割弱がしたいと回答したのに対して女性は4分の1しかおらず、さらには女性の3割弱は別の人と結婚したいと考えているなど、男女間の意識には大きな差がありました。いずれにしても、結婚したくないという回答は少なく、配偶者が同じか異なるかは別にして、一度結婚を経験した人はまた結婚したいと思っている人が多いことがわかりました。

離婚に関する意識については、離婚したいと思ったことがある人は全体の3割いましたが、実際に離婚に踏み切れそうな人は6%にしか過ぎませんでした。また、60代の女性に限って言えば、16%が「離婚したいけどできないと思う」と考えており、その一番の理由として「経済的な自立ができない」をあげています。近年熟年離婚や夫婦の年金分割などが話題になっていますが、今後の動向次第では、この年代の離婚がより増加していく可能性も示唆されました。

最後に、子どもに関する意識については、全体の4分の3の人が子どもを産んで「とても良かったと思う」と回答し、「どちらかといえば良かったと思う」をあわせると、9割以上の方が子どもを産んだことをプラスと考えていることがわかりました。また、これからの日本社会では、子どもの性別は男の子よりも女の子の方がいいと考える親が多い一方で、7割の親はどちらでもいいとし、あまり拘りを持ってはいませんでした。

以上のように、実際に結婚生活をおくっている人たちのほとんどは、結婚したことを良かったと思ひ、また、子どもを産んだ人たちは産んで良かったと考えています。結婚生活の中身は千差万別で、実際には不満やデメリットを感じる面も多々あるのかもしれませんが、総じていえば、多くの人は結婚生活を肯定しているという実態が今回の調査からは垣間見ることができました。

(研究開発室 副主任研究員 丹野 裕人)